

vol. 12

団地生活の安全・安心・快適をサポートします

JS plus
[ジェイエス・プラス]

JS LIFE DESIGN MAGAZINE
CONTENTS



- 1 特集
地域デビューで団地ライフを楽しむ
- 8 快適住まいのミニ知識
地域活動って、なに？
- 9 随筆
「メモ帳から」その12 大槻茂
- 10 CLOSE UP 団地ライフ
住民が主役の団地生活、そしてサークル活動
東京都北区の王子五丁目団地自治会
- 12 平野レミの “フライパンひとつで早ワザごはん”
- 14 こんにちはJSです。
中学生向けの副読本を作成、配布しています
- 16 読者のお便りから READER'S COLUMN
- 17 JSからのお知らせ JS INFORMATION

表紙イラスト：国分 ^{くに}チエミ

特集

地域デビューで 団地ライフを楽しむ

最近、地域デビューに注目が集まっています。
近々定年を迎えるという人も、
将来のために備えたいという人も
地域に溶け込んでいく方法について興味しんしん。
団地内でイベントやサークル活動、ボランティアなど、
さまざまな活動が行われているところも多く、
気軽にそうした活動に参加してみてもいいでしょう。
また、パートナーや友人、知人を誘って
興味のあることを新たに始めてみるのもいいでしょう。
いきいきと地域で活動を始めるといふためにどうすればいいのか、
一歩目をご紹介します。



元気にアクティブに、地域で活動しよう

楽しく充実した団地ライフには、良好な地域コミュニティが欠かせません。積極的に地域活動に参加する方法について、ライフ・テーマを見つける達人の中村義さんに、経験者の立場から、また関わってきた多くの事例から地域デビューの方法をアドバイスしていただきました。

●地域デビューがうまくできない人たち

仕事一筋でやってきた男性の場合、定年を迎えたときにご近所にまったく知り合いがないという人もいます。そうした状況では、地域デビューのきっかけがなかなかつかみにくいようです。

中村さんは「退職した後も仕事以外に自分を活かす場所がないと決めつけていると、地域に目を向ける余裕ができません。また、勤めていた会社や組織にこだわると、地域デビューしても敬遠されがちです」と指摘します。

具体的に何うと「帰属意識が強く会社を引きずっている人は変なプライドが邪魔するのか、自治会などに入っても周りの人とうまくやれないことがあります。地域デビューする際の“べからず集”をあげてみましょう。序列を持ち込まない、肩書きにこだわらない、過去の職歴は決して聞かない、君付けで名前を呼ばない、自分が動かずに仕

切りたがらない、自分のキャリアを自慢しない…」

中村さんの「べからず集」を肝に銘じて、地域デビューに備えたいものです。

●地域デビューの心得を身につけよう

「地域で気軽に活動するための心得があります」と中村さん。その心得をぜひ、伝授していただきましょう。

「先ほどの“べからず集”であげたように、会社時代に培った上下関係を地域社会に持ち込むと、うまくいきません。奥さんをはじめ身近にいる女性たちをお手本に、物事に対する身軽な行動力を学ぶことが大切です。地域社会の大先輩である彼女たちは、公園デビューやPTA、ボランティアなど地域の中で長年、活動しています。恥ずかしがらずに堂々と真似していきましょう。奥さんと一緒に地域活動を始めてみるのもいいですね」



中村義さん

1942年和歌山生まれ。ライフワーク研究家。定年5年前に企業を早期退職後、幅広くボランティア活動を展開し、市民講師として講演活動を行う。著書に『こうして「総合環境共生型住まい」ができた』、『輝いて、シニアライフ』（共に文芸社）。6月に『もっと輝いて、シニアライフ』が上梓される。



地域デビューの手始めとして、中村さんが勧めるのは家庭内での試み。

「家事をしたことがなくても、ゴミ出しをしたり家の前を掃除したりお茶を出したり、やれることはいろいろあります。私はリタイアしてから食事のあと片付けをするようになりました。家の中で、まず奥さんから尊敬されるようになることが地域デビューの第一歩です」

●まずは歩いて気力、体力、行動力をつけよう

「リタイア後に何をしたいか迷っている人たちが意外と多いですね。でも、そ



う人もほんの少し背中を押されたら始められるようです。最初の一步が出にくいだけ」と中村さん。まずは一人で気軽にできることからと、中村さんが提案するのは歩くこと。

「まずは近所を歩いてみましょう。毎回同じルートではなく、違うルートで歩いてみます。歩くことは健康にもいいし、興味を引かれることが四季折々いろいろ出てきます。帰宅後はメモを書いて投稿やブログで公開するのもいいですね。歩けば、隣の人や犬を散歩させている人、ゴミ出ししている人などいろいろな出会いがあるはず。これは私の経験ですが、挨拶をして話をしてみると結構、気の合う人がいたり面白い人がいます。新しい人との出会いを楽しんでほしいですね」

隣の人とも話したことがないのに、いきなり地域活動に参加して誰も知らない人たちの中に入るのは気が重いもの。挨拶を交わし、気軽に話ができて顔見知りになることで参加しやすくなります。



本当にやりたいことを見つけて、セカンドライフをいきいきと!

では、これから何をするかを見つけていきましょう。といっても闇雲に何でもやるのは時間がかかります。ライフワークを研究している中村さんが、何から始めればいいのか、テーマの見つけ方やヒントの探し方について、とっておきの方法を教えてくださいました。

●人世の分岐点を振り返ってみよう

「お勧めするのは、ランダムノートを使う方法です。難しくはありません。物心ついてから最近までの間の生活を振り返ってみましょう。幼いころにやりたかったこと、夢見たこと、興味があったこと、途中でやめて中断していることなどをランダムにノートに書き出していきます。この中に、生きがいやライフワークに関わるヒントがたくさん隠れています。人に見せるものではないので、恥ずかしいとか笑われるとか気にしないでどんどん書いていきます。過去の人生の節目の選択を思い出してみましょう。人生の分岐点を振り返って、違う道を選んでいたらどうなったかを考えてみる。自分はいったい何をしたかったのかと、改めて自問自答してみることで、未来へ向けての新しい道が見えてきます。100や200項目を書き込むくらいの気安さで進めてください。このランダムノートがこれからの大切なデータベースになります」

ちなみに、中村さんのランダムノートには、水彩画・山登り・昆虫採集・作文・おもちゃ作り・英語・ダンス・料理・旅行・日本酒・

陶芸・建築・日曜大工・太陽光・バリアフリー・ユニバーサルデザインなど、ズラリと並んでいます。

●ランダムノートで自分のテーマを明確に

「次に、大まかにまとめてグループ化してみます。すると、自分が興味を持っていることの傾向がはっきりとつかめるようになります。そして、自分が今でもそれを行いたいかどうか、興味があるかを再確認し、やりたいことの優先順位をつけます」

中村さんの場合は、ランダムノートを整理することによって、やりたいことのテーマを絞り、住まい、出版、陶芸の3つを選択しました。

「大切なことはテーマを一つにまとめてしまわないことです。できれば、欲張って2、3の選択肢を持つといいでしょう。それらを同時並行的に進めることで、状況の変化に柔軟に取り組むことができます。趣味と知的好奇心を満足させるもの両方があるといいですね。やってみて面白くなかったら途中で止めればいいですし、まずは試

読者プレゼント

ランダムノートの製作方法やセカンドライフのアイデアが満載、中村さんの著書「輝いて、シニアライフ」を抽選で10名様にプレゼント! 詳しくは16ページに。



してみる事が大事です」

ランダムノートは、自分が何をしたいのか、本当にやりたいことを見つける自分探しの作業といえます。中村さんは「遅くともリタイア後の半年間に集中して見つけること」といいます。

「1年くらいの間にいろいろなことをやっ

てみて見つけようという人が多いのですが、ただだらとやっているとダメ。リタイアする前に準備を始めることも大事です。人に誘われてなんとなく始めてピタッと来なかったら、1年、2年損することになります。時間はたっぷりあるようで、のんきに寄り道しているヒマはありません」

地域活動を実践するための手がかり



●実践に向けて準備しよう

手がかりをつかんだら、今度は地域デビューの準備です。

「やりたいことが決まったら情報を入手します。サークル活動やボランティアなど、手がけてみたいものの情報を役所の情報コーナーで入手したり、新聞や雑誌などで収集します。また、生涯学習やカルチャースクール、セミナー、通信教育、オープンカレッジなどに惜しまず投資して学習するのもいいでしょう。夫婦で参加すれば共通の話題ができて楽しいですね」

団塊世代のリタイアが増えることから、自治体などで受け皿が拡大しています。各地でボランティア活動やサークル活動、講習会が行われています。また、民間の団体やグループもいろいろあります。

団塊の世代より少し先輩の中村さんは、会社を早期退職し早々と地域デビューを果たしています。中村さんの肩書きには、環境カウンセラー、環境アドバイザー、生態系保護指導員、生涯学習インストラクター、健康生きがいづくりアドバイザー、福祉住環境コーディネーター、利き酒師、市民講師、作家など、書ききれないほどたくさんあります。興味を一つに絞らず、自分のやりたいことのテーマに沿って情報を収集し学習した結果、取得した資格や特技の数々です。

●団地を中心に、グループを作ってみる

知識や情報を得たら、今度はいよいよ実践です。地域の活動に参加してみましょう。

「気軽に複数の団体に入るといいですよ。入ってみて、イメージと違えばとっとと止めてもいいと思います。仕事と違うのですから、とにかく楽しくないと。気のあう既存のグループがなければ、自分でグループを作ってみるのもいいですよ」と中村さん。

「グループ作りは3人いれば始められます。オープンカレッジや講習会などに参加すると、そこには同好の士がいっぱい。気になる人がいたら声をかけてみる。お茶を飲んでおしゃべりしたり、お酒を酌み交わしたりしながら活動は気楽に。テーマは、楽しく、すぐできる、身近なものがお勧めです。グループ作りで大切な要素は、疲れることはしない、無理しない、楽しくやる、この三つです。自分がリーダーにならなくても向く人をお願いすればいい。自分ができないことは人にやってもらう、そして応援すればいいのです」

団地は活動しやすい場所なのは、と中村さん。

「グループで活動するには、人(人材)、物(場所)、金(資金)が必要です。NPO法人や任意の市民団体の活動では、人材と資金がそろっても、公共施設などを利用するため場所の取り合いになる。私も集まる場所を確保するのに四苦八苦しています。団地



四国八十八か所の霊場を歩き、遍路する中村さん。そのリポートが雑誌「日経マスタース」に掲載されました。

内には集会所があるし、人もいる。活動しやすい条件が整っています。これはうらやましいですね」

小さなグループ活動には、さまざまな種類のものがあります。面白そうなテーマや、すぐにできそうなものなどいろいろありますが、どういう活動があるか、参考にあげてみましょう。

◎街歩きタウンウォッチング◎郷土研究◎ビオトープ研究◎ウォーキング◎歴史文学散歩◎ハイキング◎ボランティアガイド◎高齢者へのボランティア◎薬膳料理研究◎体操◎食べ歩きグルメ◎地ビール◎ワイン◎お手玉遊び◎ちりめん細工◎絵本作り◎短歌◎川柳◎俳句◎陶芸◎エコロジーなど。

●市民講師にチャレンジしよう!

「テーマを見つけて学習する。そして新しいことをどんどん吸収したら、今度はそれを人に伝えていく。そして形に残す、というプロセスを大事にしたいですね。そこで、お勧めしたいのが市民講師になることです。私は、これまで学んだことや経験などを多くの人たちに伝えていきたいと考え、地域



中村さんが関わっているまちづくりの勉強会の様子。地域を活性化させるためのアイデアを出しています。



ライフテーマを見つけるための講義を行っている中村さん。シニア世代の方々が熱心に耳を傾けています。

で開催された市民講師の講習を受講し、話し方やレジュメの作り方、売り込み方を学びました。ライフワーク研究について自分が得た知識を伝えるために、オーディションを受けて市民講師になったのですが、市民講師として発表の場を持つと、人に伝えるためにより深く勉強します。楽しみながら地域社会へ還元できる市民講師、ぜひみなさんも、チャレンジしてみてください」

中村さんが勧める市民講師制度を設ける自治体が最近増えてきています。生涯学習時代を迎え、さまざまな知識や技術を持つ人が、地域の中で生涯学習指導者として活躍しています。

地域社会での自分の活かし方はいろいろありそうです。地域での活動、ぜひ気軽に楽しみながらチャレンジしてください。

地域活動って、なに？

今回は団地周辺の活動へ目を向け、団塊世代やNPO等の、マスコミをにぎわせている言葉を取り上げました。

地域デビューとは

戦後の日本を牽引してきた700万人とも言われる団塊世代が、退職後に、住んでいる周辺の地域に関していく最初の一步のことを言う、象徴的な言葉です。母親が初めて子供を連れて公園に行く「公園デビュー」になぞらえて作られた言葉で、お父さん達の地域デビューには、公園デビューと同じくらいの高い壁があるとされています。

NPO法人って

NPO法に基づいて都道府県、または内閣府の認証を受けて設立された法人をNPO法人とし、正式には「特定非営利活動法人」と言います。非営利と聞くと無償のボランティアと思われがちですが、有償・無償を問わず活動が行われています。一部寄付金控除等の特例があるものの、法人税の課税対象にもなります。ただ、公平性や利益性に関係なく柔軟な活動ができるため、自分たちの高い志に従って、自分たちの価値観で社会貢献活動が行えることが注目すべき特徴です。ニーズがあるのに行政や企業が実施できないような、地域に密着した新たな公共サービスの提供が可能です。皆さんの住む都道府県庁

の窓口やホームページで情報が公開されています。興味のある方は一度調べてみてください。



生涯学習について

社会人、家庭の専業主婦、社会の第一線から退いた人たちが、生きがい・やりがいのために、生涯を通じて行う学習活動をいいます。例えば通信教育やカルチャーセンターなどはスタンダードな生涯学習の場で、身近な公民館や図書館等でも、いろいろな趣味の会やスポーツクラブ、サークル活動が行われています。ほかにもインターネットなどを利用(eラーニング)したり、自らに適した方法を選んで個人で行う方法もあります。特に大学では、学生以外の社会人でも高度な教育を受けられるように、オープンカレッジという公開講座を開いたり、生涯学習を奨励している学校が増えているようです。生涯学習という言葉は、一般に広く知られていますが、その機会は10年ほど前に比べると、驚くほど増えてきました。



「メモ帳から」その12

大槻茂

私は、昨年四月から、日本のそば屋などの全国組織「日本麺類業団体連合会」の広報誌「酒・めん・肴」の編集を手伝っている。先日、その取材で、名古屋に行った。1泊2日で、名古屋市、その近郊の麺類を食べ歩いたのである。

新聞記者時代から中部地方は「面白いところ」と感じていたが、今回の取材で一層その感を強くした。何が面白いのか。まず、言葉の独特な言い回し。例えば、関が原を境に東は「ばか」と言い、西は「あほ」と言う。ところが、それに加えて中部では、「たわけ」とか「とろくさい」と言うのだそうだ。名古屋弁に関心のある方には、「名古屋弁重要単語熟語集」(ブックショップ「マイタウン」)を一読されることをお勧めする。

面白いのは、言葉だけではない。食べ物にも、中部圏ならではのものがたくさんある。羊羹でも餅でもない「ういろう」、奈良漬でも味噌漬でもない「守口漬け」、うどんでもそばでもない「きしめん」、どんぶりでも重箱でもない「櫃まぶし」等々、とにかく個性的である。調味料で言えば、たまり、八丁味噌、それに白(はく)醤油……。

今回、改めて「面白さ」を感じさせられたのは、名古屋ならではの「食材」の存在を知ったからである。それは、ムロアジである。ムロアジと言えば「くさや」が有名だが、名古屋では昔から「だしの素」になっているのである。料理屋などのだしの素を一般的に言うと、関東は「鰹節」、関西は「昆布」とされる。もちろん、両方使うところも多い。ところが、名古屋では干したムロアジでだしを取るという。味見をさせていただいたが、鰹節、昆布に比べると濃厚な味わいである。「たまりも八丁味噌も味が濃い。それに負けないだしを取るための先人の知恵」というのが名古屋人の説明である。

味噌煮込みをはじめ名古屋のめんつゆは、ムロアジなしには語れない。日本は広い——中部圏出身の友人の顔を思い浮かべながら、何となくニヤリとするこのごろである。



イラスト・ナメ川コーイチ

大槻茂 SHIGERU OHTSUKI
読売新聞社に入社後、社会部、生活情報部を経て、現在、青森大学客員教授。主な著書に「新天皇家の人々」「そばとうどん」「渋谷天外伝」など。

滑川公一 KOHICHI NAMEKAWA
イラスト・漫画修業のため渡仏。帰国後に個展「バリと猫と……」。'82年度日本漫画家協会優秀賞受賞。作品に「世界のショートショート傑作選」「なにぬねこ」など。

住民が主役の団地生活、そしてサークル活動

東京都北区の王子五丁目団地自治会

●住民の立場に立った行事運営

団地の敷地内に最寄の駅がある王子五丁目団地は、総棟数7棟、戸数2221戸の団地です。敷地の中央には木立をはじめ、遊具施設や広場が設けられ人々が集い活気に溢れています。そんな活気に溢れた団地の自治会副会長兼事務局長の角和子さんに秘訣を伺ってみました。

「人の勧めで入った自治会ですが、今では10数年経ちベテランの域です。最初に比べると、今ではパソコンの普及



■団地の皆様のためにと一心に語る角和子副会長・事務局長

とともに会報誌やイベントの案内状などの作成があり、仕事量も増えてきましたが楽しんでやっています。また、自治会運営の基本精神として、『参加してもらおう会員の皆さんがどうしたら喜ぶか』を念頭に行っています。行事ごとにアンケートをとり、毎回改善点を見つけたうえで工夫を凝らして運営しています」と熱心に語りかける角さんの表情には充実した様子が伺えました。

●時代に合わせて行事も変化

「自治会は年間を通してお祭りのほか、多くの行事を毎年行っています。今年度北区の高齢福祉課のお力をお借りし、『認知症を正しく学ぶ』と題して学習会を実施しました。居住者の皆様も『もし身内が認知症になっ

たらどうしよう』『もしも認知症になったときはどうしたらいいのだろう』など身近な問題と感じていらっしゃるようで、盛況でした。また、一人暮らしの高齢者の方は食事を作って楽しみたいと思っても、一人なのであまり料理をするチャンスがないのが実情。こういったことを考慮し、老若男女問わず一緒に料理を作り、一緒に料理を食べられる会も行いました。これもまた好評でした」と笑顔の角事務局長。

このほか「自治会を始めたときと現在の状況の変化は」の問いに、「近年増える自然災害に備え、防災訓練はプレゼントをあげたり参加者を多くするための“防災フェア”としていましたが、今は“訓練”を正面に位置づけて行っています」と話してくれました。



■熱心に指導する消防関係の方と真剣に取り組む住民の方達。



■まるで親子のように料理を楽しんでいるお一人。

今回は、王子五丁目団地自治会とサークルをご紹介します



■園芸教室の講師の先生の説明に聞き入る参加者。



■“たんぼぼの会”お別れ会では、手話も交えて大合唱



■お年寄りとお年寄りと一緒に折り紙に取り組む“たんぼぼの会”での一幕。

●多岐に渡るサークル活動

王子五丁目団地はサークルなどの活動も盛んで、手話サークルの“明日香”をはじめ、老人会の“桜美会”、老人と小学3年生の児童が交流する“たんぼぼの会”、洋裁教室、ソーシャルダンス教室、外国人とのふれあい会など多岐にわたる活動が行われています。

中でも角事務局長が参加する明日香は手話というコミュニケーション技術を活動のテーマにしている興味深い集まりです。月に一回、第二日曜日に開催しているそうです。内容に関して伺ってみると「手話は老化防止の訓練にと思って始められる方が多いのですが、実際に手話を行うのは難しい。今は、一ヶ月間の近況報告を手話で表現したり、お互いにコミュニケーションをとることを楽しんでいます。

また、定期的に活動している老人会の桜美会は、「家の外に出ていきいきと生活して欲しい」という趣旨で行っているそうです。活動は生きがい活動、社会奉仕活動、健康増進活動、月例会を行っています。生きがい活動にはカラオケ大会やゲームなど楽しむことができるものが多く企画してあります。

最後に角事務局長に「やりがいは何ですか」

との質問には「私たちが主催したイベントで『勉強になった』『ためになった』『楽しい』などの声を聞くと非常にうれしいです。この瞬間にやりがいを感じますね」と語ってくれました。角事務局長の一貫して会員の皆様にとり姿勢が団地の多くのイベントや団地の活気を生み出しているのだと感じました。



■月一回行われている桜美会のカラオケ。皆さん一緒に熱唱。



■麻雀大会での一場面。女性陣もがんばっています。

平野レミの

Remi Profile

シャンソン歌手で料理愛好家、
そして二男の母。
夫はイラストレーターの和田誠さん。
シェフではなく主婦として自作料理に情熱を燃やしている。



ひとつで フライパン 早ワザごはん



スタミナ&ボリュームがうれしい 元祖 フライパンビビンバ

卵は年中出回っているけど、
春が一番おいしい季節ね。
風味も栄養も抜群だから
メニューに取り入れましょう！
ビビンバでは、なんと言っても、
石焼風のこんがりとした
“おこげ”が、お得感満点！
やみつきの一品になること間違いなしよ。

■ 材料 (2~3人分)



豆もやし…………… 100g (1/2袋程度)

【A】
塩、おろしニンニク、ゴマ油 …… 各少々
牛切り落とし肉 (一口大に切る) …… 100g
ニラ (3cm長さに切る)…………… 6茎分
ご飯 ……………… 2人分
キムチ (一口大に切る)…………… 100g

【B】
しょうゆ…………… 大さじ2
すりゴマ (白)…………… 大さじ2
砂糖…………… 小さじ2
コチジャン…………… 小さじ2
ゴマ油…………… 小さじ1~2
おろしニンニク…………… 少々

ゴマ油…………… 適宜
卵黄…………… 2~3個分

■ 作り方



- ①豆もやしはゆでて水気をきり、【A】を加えて混ぜ合わせておく。【B】の材料を混ぜ合わせて、たれを用意しておく。
- ②フライパンを強火にかけ、ゴマ油少々を熱し、一口大に切った牛肉、3cm長さに切ったニラの順に炒め、肉の色が変わったら取り出す。
- ③②のフライパンにご飯を入れ、軽く炒めてからへらで押さえて焼き付け、鍋肌からゴマ油を少々たらし香ばしい焦げ目をつけてから火を止め、①のもやしと一口大に切ったキムチをのせる。
- ④③に②の肉とニラをのせて【B】のたれをかけ、真ん中に卵黄を落とす。フライパンごとテーブルに出してからよくかき混ぜていただく。

技plus

●カリッとしたおこげを作るには、多めのゴマ油を入れて、ご飯を鍋肌に押しつけることがポイントよ。

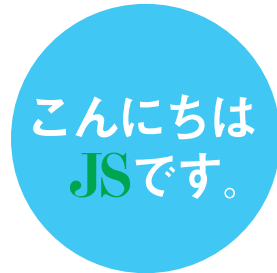


調理時間
10
分足らず

第三回

レミパン 読者プレゼント☆

前回に引き続き、
ご紹介のお料理がさらに簡単においしく作れる
『レミパン』(平野レミ考案)を、
抽選で1名様にプレゼント!
詳しくは16ページに。



こんにちはJSです。 中学生向けの副読本を作成、配布しています

今回は、JSが社会貢献活動の一環として実施している中学校技術・家庭科副読本についてご紹介します。この副読本を配布して、地域社会との交流を図っているJS千葉支店の石川支店長にお話を伺いました。

Q.JSで副読本を作り始めた理由は？

—— 現在、エコロジーを含めた住環境についての教育の重要性が検討されています。子どもたちは中学校の技術・家庭科の授業の中で、住まいに関する事柄を学びます。住まいについての勉強を通じて、福祉や環境、家族のことなど子どもたちはいろいろなことを考えるようです。子どもたちが住まい



▲JS千葉支店の石川支店長

に向き合うときに、われわれが業務の中で培ってきた集合住宅に関する知識や技術を生かせるのではないかと考えたのです。

Q.副読本の内容について教えてください。

—— 副読本は『考えよう！わたしたちの快適な住まい』というタイトルでオールカラー18ページです。その中で、集合住宅の内外の施設や設備を調べたり、住まいの内外の点検・管理・修繕の必要性や、通風や照明、住まいの中の事故防止など快適で安全な住まいの条件について考えるための材料を提供しています。教育の一環として、気持ちよく住むためのルールやマナーなどもイラストや写真を使ってわかりやすくしています。管理や修理、清掃など住まいにはいろいろな人が関わっていることを、団地に住んで

いる子どもたちにきちんと理解してほしいと考えています。



千葉市立幕張西中学校 入賞者3名を表彰しました。

千葉支店でも近隣の中学校に副読本を配布し、家庭科の授業などで活用していただいています。感想文を書かせることで作文能力が上がるとおっしゃる先生もいらして喜ばれています。

平成18年度に幕張西中学校から金賞をはじめ3名の方の作文が選ばれました。私が伺って、表彰状と賞品をお渡しいたしました。幕張は幕張メッセや新都心に近い新興住宅地ですが、家庭科の先生が副読本に興味を持ってくださったおかげで、この中学校と初めて接点が生まれました。

私は続けて4年間表彰を行っています。表彰する際には子どもたちに作品の感想を一言伝えたいと思っています。この度の表彰の席では、その機会が持てました。作品を読んで思うのは、子どもたちは大人とは違う感受性を持っているということです。安心・安全、快適さだけではなく、日々の暮らしの楽しさを重視するなど別の視点を持っています。その声に耳を傾けて思いを受け止め、今後の業務に活かしていきたいと思っています。



▲直接、受賞者達に賞状等を手渡す。
千葉市立幕張西中学校にて。

読本と読後感想文コンクール

●副読本の配布先

全国の支社や支店が、それぞれの管轄の賃貸団地周辺の中学校を対象に、毎年6月中旬頃に無料で配布しています。平成8年から配布を始め平成18年までの11年間で合計約261万部を配布。ちなみに平成18年には985校に約18万部を配布しました。配布に際しては、各支店長が中学校を訪問し、副読本の主旨や業務について説明を行い、副読本の取り組みについて理解していただくよう努めています。

●読後感想文コンクールの内容

副読本は配布するだけでなく、読後感想文を募集し、コンクールを開催します。平成18年度「第11回読後感想文コンクール」の応募には、495校から3,831作品が寄せられました。応募作品の中から金賞10篇、銀賞15篇、銅賞25篇、佳作50篇の全100篇を選びます。選ばれた中学校に、最



◀コンクールに寄せられた子どもたちの読後感想文。



◀入賞作品を数冊ずつ、図書館等に寄贈される作品集。

寄りの支店から支店長が出向いて表彰し、賞状と賞品(図書券)をお渡ししています。

●コンクール審査会

副読本の配布後、読後感想文の募集を開始し、10月末に締め切り、そして選考を行い、例年2月初旬に最終審査会を実施します。審査委員長は副読本監修者で東京学芸大学教授の小澤紀美子氏、委員は全日本中学校技術・家庭科研究会会長で文京区立第六中学校長の高澤英敏氏ほか2名の方が手掛けています。入賞者は「教育新聞」紙上で発表します。また、数年ごとに作品集を作成して、コンクールに参加した中学校、公立図書館および教育委員会へ寄贈しています。こうした活動を重ねることによって、中学校の認識も高まったためか、近年、配布部数に対して応募数の割合が増加しています。



◀「第11回読後感想文コンクール」最終審査会。

思わず住んでみたくなるような団地自慢、興味深い団地ライフ等がたくさん寄せられています。これからも皆様のご自慢や感想をお待ちしております。

「おたより」

ウチの団地には自宅の窓からすぐ間近で見られる桜の木があります。毎年時期になると花見はもちろん入学、卒業の記念写真にも絶好の場所です。誰にも邪魔されずにゆっくりバッチリ撮れちゃいます。

成田市/K・Hさん

ウチの団地は違法のはり紙、看板、車の行列がなく、スッキリ。並木路は静かで空気の良い環境。野菜は農家の地取れの店が一番のお気に入りです。

大阪府富田林市/S・Mさん

引っ越して7年目。すぐ隣に桜公園があり、それはそれは見事な花を満開にして住民を楽しませてくれます。今年ももうすぐ見られます。

西東京市/F・Mさん

駐車場が整備され、路上駐車が減り、快適空間が増えた!! うれしい。

成田市/M・Sさん

ワンルームからの入居なので、築年数が経っているとはいえ、明るく、お風呂もゆっくりつかることができるので、幸せを感じています。

大阪市/K・Tさん

読者プレゼント

① 第③回レミパン …1名様



② 輝いて、シニアライフ(書籍) …10名様



本誌同封のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で、平野レミさん考案の「レミパン」(1名様)と中村義さんの著書「輝いて、シニアライフ」(10名様)をプレゼントします。アンケートのプレゼント希望欄をチェックし、アンケートを送ってください。

締切りは、平成19年5月末日(当日消印有効)とさせていただきます。

☆ 第二回レミパン当選者 …………… ☆
東京都 市井仁子さん おめでとうございます。レミパンを送らせていただきました。

川柳、団地生活気質
だんちせいかつかたぎ

日々の生活の中で感じたこと、気づいたことなどを川柳に綴ってみませんか。

元旦の朝 ベランダより 手を合わせ
I・Tさん

引越の あいさつ二人で 新婚さん
梅の花

寒の朝 霜の白色 雪のごと 日本総合
受付の君 N・Sさん

友さそひ 団地見ながら さんぽかな
K・Tさん

雪の下 眠る虫達 春の夢
ねこちゃん

朝夕の 可愛い笑顔 ボランティア
T・Yさん

お便りをお待ちしています。

お便りを掲載させていただいた方には謝礼をお送りいたします。

宛先は、
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-9
JS日本総合住生活(株)広報課
「JSplus読者のお便りから」係

* お便りには郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を書き添えてください。

●福祉制度拡充へ、駐車料金を割引

JSは社会福祉の一環として、このほど「身体障害者等駐車場料金割引制度」を新設しました。対象者は一定の所得以下の身体障害者世帯(1~4級)、知的障害者(最重度又は重度)等世帯、要介護者世帯(1~5度)の方になります。3月末日までに契約をいただいた方の申請は5月1日まで受け付けます(4月1日以降の契約者は随時受付)。必要書類を受け付け後、審査を実施し、書面にて結果を通知します。なお、割引率は19年4月以降の利用料金の1割引となります。

制度に関してご質問等がございましたら、管轄の各支店・出張所にお問い合わせください。



●JSplusは管理サービス事務所にも置かれています。ぜひ、多くの方のご愛読をお願いいたします。

●次号JSplusの発行は平成19年6月の予定です。